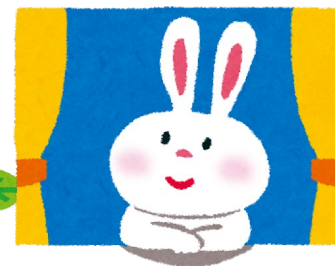


サンワチャンネル

令和6年6月号



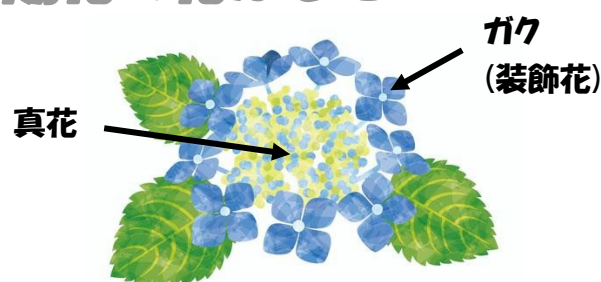
～梅雨を彩る花 紫陽花～

6月。梅雨の季節が到来。雨や曇りの日が多く湿気でじめじめ…梅雨を憂鬱に感じる方も多いかと思います。しかし、そんな季節を彩るのが梅雨の花、紫陽花。道端でもよく見かける紫陽花を愛でながら、今年の梅雨を過ごしてみませんか？

紫陽花はどんな花？

あじさいは主に5～7月が開花時期の落葉低木で、冬に葉を落とします。特に6月上旬～7月上旬頃の梅雨の時期が最も見頃となります。原産地は日本ですが、世界で広く親しまれています。ガクアジサイやホンアジサイなどの種類がありますが、世界中で品種改良され、次々と新しい品種が生まれており、約2,000種類もの品種があります。あじさいの花言葉は「移り気」「浮気」「無常」で、色ごとの花言葉は、「青＝辛抱強い愛情」「ピンク＝元気な女性」「白＝寛容」です。

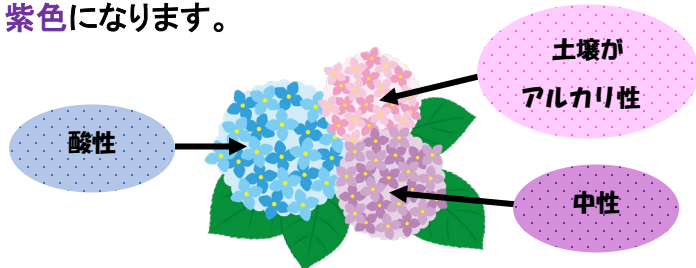
紫陽花の花はどこ？



多くの人が鑑賞している大きな花びらに見える部分は実は花ではなく、装飾花と言われるガクの部分です。花粉を運ぶ昆虫を引き寄せるために発達したと言われていますが、ガク片なので通常は種が育ちません。真花は中央に密集している部分で、注意して見ていると、小さいながらもつぼみが開花していく様子が観察できます。

紫陽花の色の秘密…

あじさいには赤、青、紫などの色がありますが、この色のベースになるのはアントシアニンという色素です。このアントシアニンは通常赤色ですが、土壌から溶け出してきたアルミニウムと反応すると、青色に変化します。よって、アルミニウムをたくさん吸収したアジサイは青色、しなかったものは赤色、その中間が紫色になります。



アルミニウムが溶け出す量は、水の酸性度によって決まり、酸性だとよく溶けて、中性～アルカリ性だとあまり溶けません。よって、土が吸収した水が酸性＝青色、中性＝紫色、アルカリ性＝赤色になります。白いあじさいもありますが、これは元々アントシアニンを持っていないため色が変化しないあじさいとなっています。

東北の紫陽花の名所

東北にもあじさいの名所がたくさんあります。あじさいが一面に咲き誇る景色はなんとも神秘的です。雨が似合う花「あじさい」を楽しみに、少し羽を伸ばしてみたいはいかかですか？

雲昌寺

- (秋田県男鹿市)
- ・6月中旬～7月中旬
- ・境内一面の青色
- ・あじさいと海の景色

みちのくあじさい園

- (岩手県一関市)
- ・6月下旬～7月下旬
- ・日本最大級
- ・あじさい池が有名

出塩文殊堂

- (山形県山形市村木沢)
- ・6月下旬～7月中旬
- ・石段の参道に色とりどりのあじさい
- ・ライトアップも幻想的

